

The cold winter has finally come from the north to the forest where a family of fox lives.

One morning, a baby fox was about to get out of the den.

“Oh!”

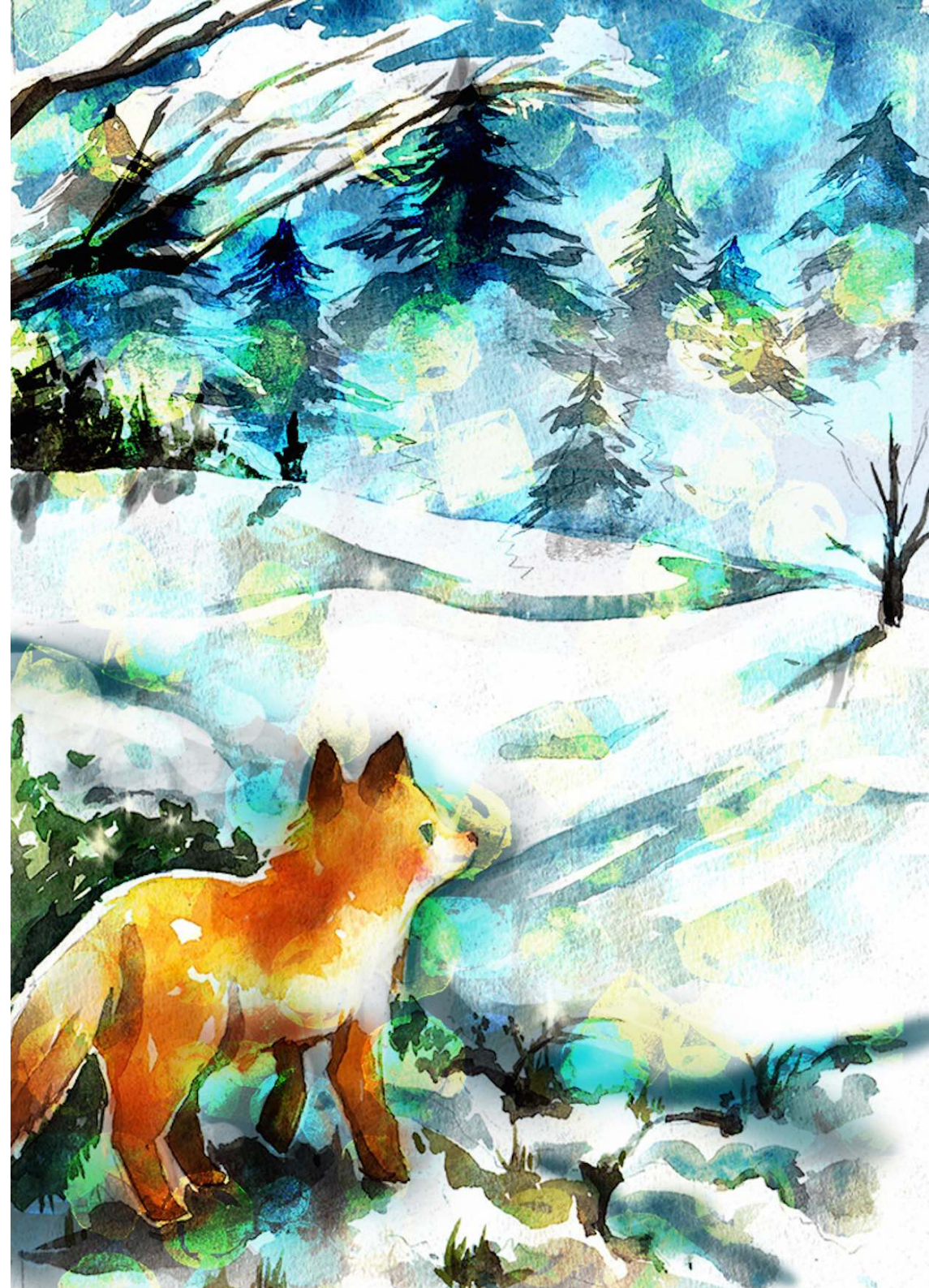
The baby fox screamed and he rolled back to his mother while covering his eyes.

“Mama, something’s pierced my eyes. Please take it out. Hurry, hurry!”

The mother fox was shocked and she quickly removed the baby fox’s hands, but nothing was piercing his eyes.

It was actually the reflected sunlight on the snow, which had piled up during the night. Since the baby fox had never seen snow, he thought something was piercing his eyes.

Later on, the baby fox went out to play.



The baby fox was running around in the snow, which was as soft as cotton. The powder snow splashed like a spray and a small rainbow appeared briefly.

All of a sudden, there was some loud banging and sliding sounds heard from behind. Then, the snow that looked like breadcrumbs had covered his head.

The baby fox was blown over and ran away tumbling.

The snow was sliding down from the branches of a fir tree

There was still snow dropping in-between the branches like a thread of white silk.



さむい ふゆが きたの ほうから、
きつねの おやこの すんでいる もりへも やってきました。

あるあさ、ほらあなから こどものきつねが
でようと しましたが。

「あ！」

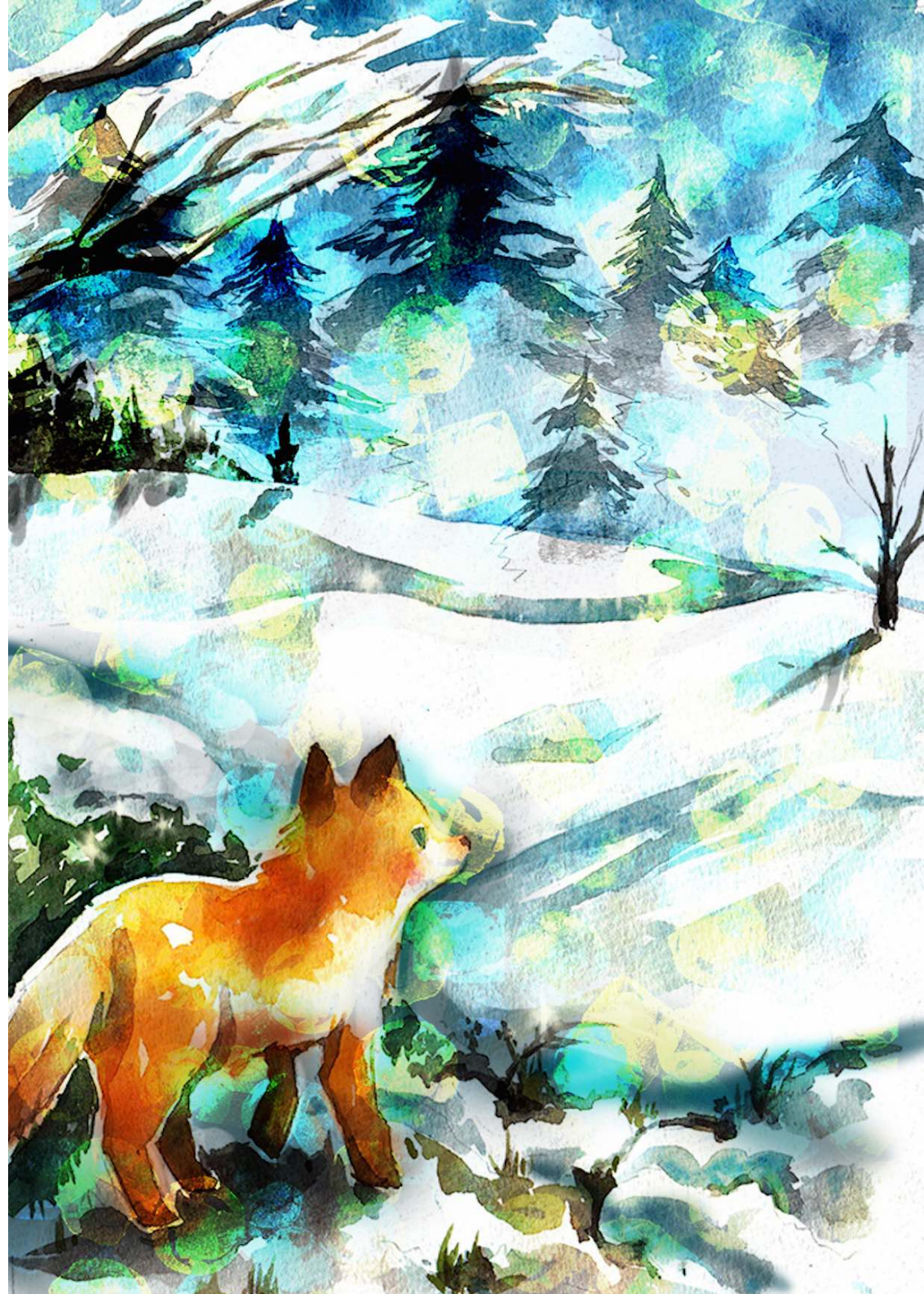
といって、めを おさえながら、
かあさんぎつねの ところに ころげてきました。

「おかあちゃん、めに なにか ささった、ぬいてちょうだい、
はやく はやく！」

かあさんぎつねは びっくりして、あわてて こぎつねの てを
とりのけてみましたが、なにも ささっていませんでした。

きのうのうちに ふりつもった ゆきが、
おひさまの ひかりを はんしゃして、
ゆきを しらない こぎつねは、
めに なにか ささったと おもったのです。

こぎつねは、あそびに でかけました。



まわたのような やわらかい ゆきの うえを かけまわると、
ゆきの こなが しぶきのように まって、
ちいさい にじが すっと うつりました。

とつぜん、うしろから、どたどた！ざーっと
おおきな おとがして、パンこの ような ゆきが、
わーっと こぎつねに かぶさってきました。

こぎつねは びっくりして、
ゆきの なかを ころげるように にげました。

それは もみの きの えだから、ゆきが なだれおちたのでした。

まだ えだと えだの あいだから、しろい きぬいとの ように、
ゆきが こぼれていました。

